

2019年11月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2019年10月11日

上場会社名 ニッケ（日本毛織株式会社） 上場取引所 東
 コード番号 3201 URL http://www.nikke.co.jp
 代表者 （役職名）代表取締役社長 （氏名）富田 一弥
 問合せ先責任者 （役職名）経理室長 （氏名）藤原 浩司 TEL 06-6205-6635
 四半期報告書提出予定日 2019年10月15日 配当支払開始予定日 ー
 四半期決算補足説明資料作成の有無： 無
 四半期決算説明会開催の有無： 無

（百万円未満切捨て）

1. 2019年11月期第3四半期の連結業績（2018年12月1日～2019年8月31日）

（1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年11月期第3四半期	90,365	14.1	7,558	39.1	8,089	32.3	5,312	38.4
2018年11月期第3四半期	79,174	4.0	5,434	△4.4	6,116	2.8	3,840	△2.1

（注）包括利益 2019年11月期第3四半期 2,841百万円（9.2%） 2018年11月期第3四半期 2,603百万円（△53.1%）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年11月期第3四半期	73.08	—
2018年11月期第3四半期	52.53	—

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2019年11月期第3四半期	142,350	90,221	62.6	1,225.29
2018年11月期	141,644	89,195	62.2	1,212.69

（参考）自己資本 2019年11月期第3四半期 89,071百万円 2018年11月期 88,156百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年11月期	—	10.00	—	12.00	22.00
2019年11月期	—	12.00	—		
2019年11月期（予想）				12.00	24.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

3. 2019年11月期の連結業績予想（2018年12月1日～2019年11月30日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	120,000	8.6	9,500	13.5	10,000	9.5	6,300	19.4	86.66

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 有

連結業績予想の修正については、本日（2019年10月11日）公表いたしました「通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2019年11月期3Q	86,478,858株	2018年11月期	86,478,858株
② 期末自己株式数	2019年11月期3Q	13,784,482株	2018年11月期	13,784,085株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2019年11月期3Q	72,694,545株	2018年11月期3Q	73,097,472株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料記載の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、上記の予想と実績との間には、今後の様々な要因によって差異が生じる場合があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)	8
(会計方針の変更)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものです。

(1) 経営成績の状況

「ニッケグループRN（リニューアル・ニッケ）130第1次中期経営計画」の最終年度となる今期は、これまでに取り組んできた各施策を成果に結びつけると同時に、次のフェーズに向けた基本戦略と重点施策の構築を進めております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の経営成績は、売上高90,365百万円（前年同期比14.1%増）、営業利益7,558百万円（前年同期比39.1%増）、経常利益8,089百万円（前年同期比32.3%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益5,312百万円（前年同期比38.4%増）となりました。

株式会社エミー、株式会社AQUAを通年で連結することに加え、産業機材のファクトリーオートメーション（以下FA）事業が好調に推移していることや、当第3四半期連結会計期間において人とみらい開発事業で販売用不動産を売却したこと等が寄与し、増収増益となりました。

セグメントの概況は以下のとおりです。

①衣料繊維事業

衣料繊維事業の当第3四半期連結累計期間の経営成績は売上高24,028百万円（前年同期比2.5%減）、営業利益は1,099百万円（前年同期比37.6%増）となりました。

（ユニフォーム分野）

学校制服用素材は、今年度の新入学生向け追加需要はほぼ前年同期並みに推移しました。官公庁制服用素材は、警察向けの需要は減少傾向で推移しましたが、消防向けの需要が堅調に推移し、前年同期並みとなりました。一般企業制服用素材は、交通関係の新規・更改需要の増加に加え、製造業関係の作業服の需要が旺盛で好調でした。また、羊毛原料価格は下落傾向にあるものの依然高い水準にあり、コストアップが収益を圧迫しました。

（テキスタイル分野）

一般衣料用素材は、国内販売、海外販売ともに前年同期並みに推移しました。

（ヤーン分野）

売糸は、高付加価値品に販売を絞り込んだため、売上高は低調でしたが収益は改善しました。また、事業戦略の見直しにより中国の紡績加工会社を売却したことも収益の改善につながりました。

②産業機材事業

産業機材事業の当第3四半期連結累計期間の経営成績は売上高18,844百万円（前年同期比19.5%増）、営業利益1,467百万円（前年同期比43.4%増）となりました。なお、前第2四半期連結会計期間より連結対象とした株式会社エミーの通年寄与が増収の主因となっています。

（自動車関連分野）

国内自動車生産が堅調に推移する中で、車両向けの不織布や縫製糸、結束紐などの受注は前年同期並みで推移しました。車載電装品他製造ラインのFA設備の受注は順調に推移し、前年同期を上回りました。

（環境関連分野）

中国の環境規制強化の流れから、集塵用フィルターなどの環境関連資材は堅調に推移しました。

エネルギー関連はソーラー発電設備の受注により前年同期を上回りました。

（その他産業関連分野）

工業用資材と画像検査装置は堅調でしたが、半導体関連装置とOA向けおよび家電向け資材は低調に推移しました。

（生活関連分野）

ラケットスポーツ関連は、ソフトテニスガットが低調でした。フィッシング関連は、釣具の販売は前年同期並みで推移しました。生活関連資材は、楽器用フェルトの販売が堅調に推移していましたが、中国経済失速の影響で減速しました。

③人とみらい開発事業

人とみらい開発事業の当第3四半期連結累計期間の経営成績は売上高34,837百万円（前年同期比21.1%増）、営業利益5,436百万円（前年同期比28.0%増）となりました。

（開発関連分野）

商業施設運営関連は、「ニッケコルトンプラザ」（千葉県市川市）で2019年4月に「ツムグテラス」をリニューアルオープンし、また、「ニッケパークタウン」（兵庫県加古川市）では、2016年本館リニューアルと2017年開業の「ミーツテラス」の相乗効果が継続していることにより、好調に推移しました。また建設関連においても前年同

期を大きく上回る受注状況となったことに加え、販売用不動産を売却したことが売上、利益に大きく貢献しました。

（ライフサポート分野）

保育・学童保育関連は、新規施設を順調にオープンしたことが売上に貢献しました。介護関連は、施設への入居者数が増加したことや人員増強の効果が現れ好調に推移しました。一方、スポーツ関連は、一部施設の閉鎖、悪天候の影響に加え、利用者数も減少傾向にあることから、低調でした。

（通信及び新規サービス分野）

通信関連は、引き続き携帯事業を取り巻く環境変化への対応を鋭意進めています。2019年3月の最大商戦期において取り組みへの効果が発揮できたことで、前年同期を上回りました。

新規サービス関連については、菓子類販売、児童向けアミューズメント施設の新規出店の効果等により好調に推移しました。

④生活流通事業

生活流通事業の当第3四半期連結累計期間の経営成績は売上高12,655百万円（前年同期比26.7%増）、営業利益759百万円（前年同期比36.0%増）となりました。

（寝装品及び業務用品分野）

E C向け寝装品が好調だったことに加え、災害用毛布の大口納品があったことが寄与し、売上高は前年同期を上回りましたが、E C向けOEM寝装品の価格競争が収益を圧迫しました。

（生活雑貨分野）

家具や100円ショップ向け商材等の販売が好調に推移しました。また、E Cで生活家電や雑貨を販売する株式会社AQUAがグループに加わり業績に大きく貢献しました

（ホビー・クラフト分野）

乗馬用品販売は当第3四半期に株式会社日本馬事普及がグループに加わったことも寄与し、好調に推移しました。スタンプ用インク、スタンプの販売は共に低調でした。

（その他）

保険代理店の業績は前年同期並みに推移しました。また、コンテナ販売は新規得意先拡大とメンテナンス業務の受注増により好調でした。

（2）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

最近の業績の動向等を踏まえ、2019年7月12日に公表した連結業績予想を修正いたしました。

詳細については、本日（2019年10月11日）公表いたしました「連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年11月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	17,969	23,194
受取手形及び売掛金	26,897	24,184
商品及び製品	15,301	17,747
仕掛品	6,746	7,388
原材料及び貯蔵品	2,233	2,102
その他	1,505	1,823
貸倒引当金	△77	△66
流動資産合計	70,575	76,374
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	26,032	25,456
機械装置及び運搬具（純額）	5,450	5,061
土地	8,216	7,406
建設仮勘定	842	107
その他（純額）	935	985
有形固定資産合計	41,477	39,017
無形固定資産		
のれん	1,708	1,542
その他	1,030	1,014
無形固定資産合計	2,739	2,556
投資その他の資産		
投資有価証券	22,471	20,162
長期貸付金	2	2
破産更生債権等	113	113
長期前払費用	335	293
退職給付に係る資産	802	807
繰延税金資産	891	855
その他	2,375	2,308
貸倒引当金	△140	△140
投資その他の資産合計	26,851	24,401
固定資産合計	71,069	65,975
資産合計	141,644	142,350

（単位：百万円）

	前連結会計年度 (2018年11月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年8月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	11,663	12,797
短期借入金	16,734	16,535
1年内償還予定の社債	10	110
未払法人税等	1,585	1,260
引当金	530	899
その他	7,830	6,597
流動負債合計	38,355	38,201
固定負債		
社債	120	10
長期借入金	1,274	2,552
繰延税金負債	2,165	914
退職給付に係る負債	2,694	2,678
長期預り敷金保証金	6,752	6,690
資産除去債務	369	372
その他	717	709
固定負債合計	14,093	13,927
負債合計	52,449	52,128
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,465	6,465
資本剰余金	4,503	4,468
利益剰余金	81,622	85,190
自己株式	△9,433	△9,434
株主資本合計	83,158	86,690
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	5,586	3,048
繰延ヘッジ損益	97	2
為替換算調整勘定	273	178
退職給付に係る調整累計額	△959	△848
その他の包括利益累計額合計	4,997	2,381
非支配株主持分	1,039	1,149
純資産合計	89,195	90,221
負債純資産合計	141,644	142,350

（2）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

（四半期連結損益計算書）

（第3四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	前第3四半期連結累計期間 （自 2017年12月1日 至 2018年8月31日）	当第3四半期連結累計期間 （自 2018年12月1日 至 2019年8月31日）
売上高	79,174	90,365
売上原価	59,151	67,290
売上総利益	20,022	23,074
販売費及び一般管理費	14,588	15,516
営業利益	5,434	7,558
営業外収益		
受取利息	18	15
受取配当金	549	533
持分法による投資利益	240	157
その他	216	165
営業外収益合計	1,025	872
営業外費用		
支払利息	66	65
為替差損	49	70
その他	226	204
営業外費用合計	342	341
経常利益	6,116	8,089
特別利益		
投資有価証券売却益	289	629
固定資産売却益	21	180
関係会社株式売却益	—	19
関係会社清算益	88	—
特別利益合計	399	829
特別損失		
投資有価証券評価損	—	100
事業構造改善費用	335	484
特別損失合計	335	584
税金等調整前四半期純利益	6,180	8,334
法人税、住民税及び事業税	2,349	2,975
法人税等調整額	△112	△102
法人税等合計	2,236	2,873
四半期純利益	3,943	5,461
非支配株主に帰属する四半期純利益	103	148
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,840	5,312

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2017年12月1日 至 2018年8月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年12月1日 至 2019年8月31日)
四半期純利益	3,943	5,461
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△1,329	△2,515
繰延ヘッジ損益	△20	△94
為替換算調整勘定	△197	△106
退職給付に係る調整額	101	110
持分法適用会社に対する持分相当額	107	△12
その他の包括利益合計	△1,339	△2,619
四半期包括利益	2,603	2,841
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,504	2,696
非支配株主に係る四半期包括利益	98	145

（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更）

（1）連結の範囲の重要な変更

第2四半期連結会計期間より、当社の連結子会社であるニッケ不動産㈱が新たに取得した子会社1社を連結の範囲に含めております。

当第3四半期連結会計期間より、株式取得により子会社となったため、㈱日本馬事普及を連結の範囲に含めております。

（2）持分法の範囲の重要な変更

該当事項はありません。

（会計方針の変更）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（追加情報）

（「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用）

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 2018年2月16日）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(セグメント情報)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間（自 2017年12月1日 至 2018年8月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	衣料繊維 事業	産業機材 事業	人とみらい 開発事業	生活流通 事業	合計		
売上高							
(1)外部顧客への売上高	24,648	15,765	28,776	9,984	79,174	—	79,174
(2)セグメント間の内部売上高又は振替高	217	164	556	375	1,314	△1,314	—
計	24,865	15,930	29,332	10,360	80,488	△1,314	79,174
セグメント利益	799	1,023	4,248	558	6,629	△1,195	5,434

(注) 1. セグメント利益の調整額△1,195百万円には、セグメント間取引消去5百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,200百万円が含まれております。全社費用は、主にセグメントに帰属しない一般管理費等であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間（自 2018年12月1日 至 2019年8月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	衣料繊維 事業	産業機材 事業	人とみらい 開発事業	生活流通 事業	合計		
売上高							
(1)外部顧客への売上高	24,028	18,844	34,837	12,655	90,365	—	90,365
(2)セグメント間の内部売上高又は振替高	185	126	491	448	1,252	△1,252	—
計	24,214	18,971	35,328	13,104	91,618	△1,252	90,365
セグメント利益	1,099	1,467	5,436	759	8,763	△1,204	7,558

(注) 1. セグメント利益の調整額△1,204百万円には、セグメント間取引消去12百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,217百万円が含まれております。全社費用は、主にセグメントに帰属しない一般管理費等であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。